

成果主義と賃金構造の変化

愛知学院大学 三好 向洋

大阪大学大学院経済学研究科、日本学術振興会 明坂 弥香

本研究では、1990年代後半より日本企業での導入が進んだと言われている成果主義制度と、それに伴う賃金構造の変化について分析を行った。平成24年度の賃金構造基本統計調査と、就労条件総合調査の事業所データをマッチングし、労働者の賃金の決定要素を明らかにした上で、業績・成果を賃金に反映させるか否かで生じる賃金の違いを調べた。分析方法には、DFL分解・ウェイト付FFL分解を用い、賃金階層ごとの違いに着目している。

本研究の結果から、成果主義は50パーセント以上の高い賃金層よりも、低い賃金層に影響を与えていることが明らかになった。成果主義制度の下では、p50-p10のパーセントイルギャップが拡大する傾向にあり、学歴間賃金格差の広がりも観察された。また、成果主義は賃金プロファイルをフラット化させる効果を持ち、成果主義制度の下では非成果主義的な賃金体系の下にいるよりも、潜在的経験年数30年以上の労働者が受け取る賃金が、彼らより若い年齢層の受け取る賃金と比べて、相対的に低くなることが分かった。

Key Words : 成果主義 ; 賃金格差 ; 賃金階層

JEL classification ; J31 ; J33 ; C31